

科目名	現代の社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私たちが生きていく現代社会は、どのように形成され、どんな到達点にあり、どんな課題を抱えているのだろうか。授業では、このことを日本における「仕事、生活、そして両者の結びつき」という切り口で考える。暗記する科目ではなく、「なぜか?」と考える科目である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前近代から近代へ、近代から現代への社会の歴史的転換について、基礎的な知識を持つ。</li> <li>・「仕事と生活」に現れた日本社会の特徴について理解できる。</li> <li>・現代日本の職業社会状況について、大学生としての基本的知識を持つ。</li> <li>・数値データの表を読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを論理的な文章に表現できること。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イントロダクション—現代社会の特徴を捉える</li> <li>(2) 仕事とは? 生活とは?—「仕事と生活」を結びつけるもの</li> <li>(3) 「仕事と生活」の前近代から近代社会への大変化</li> <li>(4) 生活とニーズの変化に伴う職業の変遷—消えた職業・新しい職業</li> <li>(5) 職業労働・雇用労働とは何か</li> <li>(6) 80年代までの「雇用労働」と「企業福祉に支えられた生活」</li> <li>(7) 90年代後半からの「雇用労働」の流動化と「生活」</li> <li>(8) 人々はどんな産業でどんな職業に就いているのか</li> <li>(9) 現代の労働世界と若者1—事実をデータで確認する</li> <li>(10) 現代の労働世界と若者2—若者は職場で育てられているか</li> <li>(11) 現代の労働世界と若者3—「フリーター現象」とは何だったのか</li> <li>(12) 現代日本社会の悲しさ—「年越し派遣村」・労働者派遣法</li> <li>(13) もう一つの現代日本社会の悲しさ—生活できない最低賃金</li> <li>(14) 生きる力となる最低限の知識と智恵</li> <li>(15) 総まとめ</li> </ol>	
自学自習	事前学習	毎回、新聞の雇用や労働に関連する記事に目を通しておくこと。
	事後学習	・教科書に出てきた意味の分からない用語は、辞書等で調べること。
使用教材・参考文献	<b>【教】</b> 森岡孝二『就職とは何か』岩波新書, 2011年(798円)。ISBN 9784004313380 <b>【参】</b> 熊沢誠『若者が働くとき』ミネルヴァ書房, 2006年。ISBN 4623045935	
成績評価方法と基準	<方法> 定期筆記試験75%、①新聞記事提出課題10%、②読書レポート課題15%。 <基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	・次の2課題の遂行を求める。①雇用・労働関連の新聞記事を切り抜き、毎回コメントをつけて提出する。②定期筆記試験日までに教科書の読書レポートを提出していること（作成要領等は授業で指示する）。	